

公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

2015 年度  
事業報告書

(公益第3期)

(2015年7月1日～2016年6月30日)



公益財団法人

ひょうごコミュニティ財団

HYOGO COMMUNITY FOUNDATION

# 目 次

<b>1. 概況</b>	<b>・ ・ ・ ・ ・ 2</b>
<b>2. 事業</b>	<b>・ ・ ・ ・ ・ 4</b>
(1) ファンドレイジング事業	
(2) 共感寄付事業	
(3) Project HEAT (外国にルーツを持つ子ども支援) 事業	
(4) 「輝け加古川こども基金」事業 <新規>	
(5) 真如苑冠基金事業	
(6) NPO への助成事業	
(7) 他の基金等の事務局受託等	
(8) NPO への相談・情報提供事業	
<b>3. 組織</b>	<b>・ ・ ・ ・ ・ 12</b>
(1) 役員、評議員、顧問、専門アドバイザー等の状況	
(2) 支援者の拡大	
(3) 会議	
<b>4. 決算報告</b>	<b>・ ・ ・ ・ ・ 15</b>
(1) 正味財産増減計算書	
(2) 正味財産増減計算書内訳書	
(3) 貸借対照表	
(4) 財産目録	
(5) 財務諸表に対する注記	
(6) 附属明細書	
(7) 監査報告	

※附属明細書について

2015年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

## 1. 概況

(計画)

設立2年の実績をベースとして「共感寄付」「テーマ型助成」「冠基金」「寄付つき商品」などを推進し、いっそう実績を重ねるとともにコミュニティ財団の認知度を高め、当財団の財政的離陸への手応えをつかむ年としたい。

「共感寄付」は当財団の一つの柱として育ちつつある。単に「寄付集め」にとどまらず、一般市民からの参加・認知の拡大、企業人のプロボノ参加を通じた企業本体との関係強化、地域のNPOからの認知と期待など波及効果も大きく、当財団の一つの「顔」として引き続き育てていきたい。

当財団初の本格助成事業である「外国にルーツを持つ子ども支援ひょうご基金」が昨年度末から始まり、助成先2団体には資金提供以外のサポートも実施してゆく。テーマ自体が当財団がミッションとする地域づくりにぴったり当てはまるのはもちろん、こういった具体性のある支援は当財団の存在価値を広く理解して頂く上でも効果が大きく、引き続き第2、第3のテーマ型（または冠）基金を目指し、ファンドレイズにも弾みをつけていきたい。

当面最重要のファンドレイズについては、ようやく事務局体制も整いつつあり、企業へは「寄付つき商品」や「社員の社会参加」などのWin-Win提案からのアプローチを基本としつつ、踏み込んだ「地域貢献」（冠基金など）を模索する。個人に対しては、広報を強化しつつ募金箱や共感寄付パンフレットなどの接点を拡大するとともに、共感寄付などの場への参加機会を拡充し、「ファン」を増やす。

当年度内に最低1つのテーマ型（または冠）基金設置を目指す。

引き続き法人としての基盤整備を進め、事業・管理両面において効率化と専門性の深化を図る。役職員ともに、状況に応じて拡充も検討する。

実質的に法人3年目となる2015年度は、当財団として大きな進展のあった1年であった。

本格的な助成事業の第2弾であり、地域の寄付者による冠基金としては初の「輝け加古川こども基金」を創設・実施した（事業（4））。また、年度内の実施には至らなかったが、宗教法人真如苑からのご寄付により「子どもの貧困」をテーマとする助成プログラムの実施を準備した（事業（1））。この他、遺贈寄付のご相談も寄せられるなど、地域コミュニティをベースとして「お志のある資金＝志金」をもっとも適した形で地域貢献・NPO助成に活かすという当財団の基本的役割への認知と期待が具体化し、コミュニティ財団として「離陸」が視野に入ってきた1年であった。

設立当初から取り組んできた「共感寄付」は、熊本地震による延期があったものの、第2期（後半）、第3期、第4期（前半）を実施、合わせて32団体の35事業を応援した。お寄せいただいた寄付金は第2期が6,674,780円（500件）（2015/6/30までの分を含む）、第3期が5,018,109円（295件）、第4期が355,000円（77件）（6月30日現在）と計約1,200万円を超える寄付を集めている。本年9月末の第4期終了までの見通しを加味すると、第1期（2014年度）からの累計額は約1,600万円となる予想である。マスメディアによる取り上げも多く当財団の目玉事業の一つとなり、兵庫におけるNPOの寄付集めの重要なプラットフォームにもなっている。ただし採算的には赤字の状態が続いており、実施方法の見直しが必要になってきている（事業（2））。

一方、「寄付つき商品」や企業の「冠基金」第2弾は実現できておらず、個人寄付も含めて引き続きファンドレイジングが最重要課題である。年度末近くには当財団と関係の深い専門家の方々のご協力を得て「遺贈推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、ご相談があった場合の対応体制を整えるとともに広報・営業体制も強化した。東京方面（兵庫出身者など）も視野に入れつつ、ファンドレイジングにさらに注力していきたい。

個々の助成プログラムの開発・実施には相当な手間暇がかかるため、案件を積み重ねてその効率化、パターン化にも努めてゆく必要がある。他方で現場のニーズ（地域課題）と団体の状況を

熟知していることが当財団の強みでもあるから助成プログラムごとのオーダーメイド性も重要であり、その難しいバランスを探っていく必要がある。

### ○当年度の助成額等とその内訳

1. 助成総額 14,737,951円

#### 2. 内訳

##### (1) 共感寄付

(1-1) 第2期 5,615,510円 ※1

(1-2) 第3期 4,201,121円

(1-3) 第4期 0円 ※2

(計) 9,816,631円

※1 前期2014年度である2015年6月30日までの寄付に対応する助成金額を含んでいる。

※2 2016年6月30日までにいただいた寄付に対する助成は2016年10月に実施されるため、ここでは0となっている。8月19日現在の寄付額は1,021,378円(160件)。

##### (2) Project HEAT

(2-1) 第1期 1,100,000円

(2-2) 第2期 1,300,000円

(計) 2,400,000円

##### (3) 輝け加古川こども基金

(3-1) 第1期 2,521,320円

(計) 2,521,320円

※他に、北関東(常総)水害緊急支援(寄付金)として205,684円がある。

### ○当年度の寄付金総額

寄付金総額 17,903,963円

※北関東(常総)水害緊急支援の寄付金(212,035円)を含む。

## 2. 事業

### (1) ファンドレイジング事業

#### (計画)

企業への基金設置や寄付付き商品、ボランティア／プロボノ情報、NPOツアーなどのCSR提案、個人へのアプローチ、既存の財団等へのアプローチを行う。

また、昨年度からの募金箱事業を展開、自販機を含めて元町商店街はじめ商店や企業・団体にも設置する。財団の認知度向上をはじめ、企業、商店、団体などとの関係強化、ネットワーク作りの入り口として役立てる。

また、神戸市主催の「神戸マラソン」への「チャリティマラソン化」提案を試みる。

#### (募金箱)

元町商店街	30個
NPO経由	50個

本年度、下記のようにいくつかのファンドレイジングが実現し、コミュニティ財団としての役割が具体化してきた。一方、「Project HEAT」(HSBC グループ)に続く企業基金第2弾はまだ実現しておらず、寄付付き商品もまだである。引き続きファンドレイジングに注力してゆく必要がある。

また、独立した冠基金(大口)以外に小口でも冠基金を推進しており(子ども、災害、障がいの3テーマ)、小口の冠基金を合同して1つの公募助成プログラムにする必要があるため、小口の冠基金の募集にも力を入れる必要がある。

#### 【輝け加古川こども基金】

年度初めの7月に加古川市在住の個人の方からご相談があり、お気持ちに沿うような寄付・助成プログラムのご提案を経て、「輝け加古川こども基金」として結実した(事業(4))。地域ベース、また個人寄付をもとにした基金としては初の基金である。

#### 【真如苑の社会貢献】

宗教法人真如苑からのご相談で、「子どもの貧困」をテーマに助成プログラムを実施することとなった。年度内はニーズのリサーチや活動団体の把握に時間をかけ、実施は次年度となった。

#### 【遺贈】

ご紹介により県内在住の方から遺贈のご相談があった。現在まだ相談継続中である。

また、年度末6月には協力いただける専門家により「遺贈推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、ご相談があった場合の対応体制を整えた。また、チラシも作成(新年度)、広報・営業体制も強化した。

津久井進	弁護士	芦屋西宮市民法律事務所 代表社員
重田和寿	弁護士	神戸きらめき法律事務所
島田雄三	司法書士	司法書士島田雄三事務所 代表者
石神健吾	司法書士	石神健吾司法書士事務所 代表者
福田陽子	司法書士	福田陽子司法書士事務所 代表者
宮崎洋彰	税理士	あすか税理士法人 代表社員
森田義	税理士	森田義税理士事務所 代表者
櫻井美津夫	不動産鑑定士	(株)新日本カンテイ神戸 代表取締役

### 【募金箱】

募金箱は合計 66 個（元町商店街 23 個、NPO 他店舗 43 個）を設置した。元町商店街設置分も、2015 年 4 月設置開始して 1 年間が経つ店舗も出てきており、募金箱交換が始まっている。

### 【コレクティブ・インパクト・モデル事業】

当財団も加盟する(一社)全国コミュニティ財団協会の事業として、全国で「コレクティブ・インパクト・モデル事業」を実施することとなり、今年度の関西ブロックでのモデル事業を当財団が実施することとなった。

本事業は、単なる NPO 支援を超えて、行政や専門家、地域の企業・団体等が地域課題の解決のために強みを寄せ合い、コミュニティ財団がその結節点の役割を果たそうという先駆的な取り組みであり、全国コミュニティ財団協会が日本財団からの助成を受け、同協会から当財団への委託の形で実施する。

「子どもの貧困対策」をテーマに、神戸市長田区において実施する予定で準備を進めている。

## (2) 共感寄付事業

### (計画)

第一期／第二期を通じ、徐々に離陸が見えつつある共感寄付をさらに進めて行く。これまでのノウハウを活かし、より実践的な団体支援を行うと同時に、ボランティアによる市民参加を積極的に促し、寄付文化の定着に取り組む。第三期は2015年8月末に団体決定。9～11月の準備期間を経て、12月～2016年3月18日を寄付募集期間とする。第四期は、2016年1月に団体決定。3月下旬からの寄付募集を予定とする。

2015年度は第2期の寄付募集期間が7月31日まで、第3期が選考期間を経て12月1日から3月18日まで寄付募集期間となり、第4期が11月から団体募集で2016年1月に選考し、6月30日から(9月まで)寄付募集期間に入る。

なお、第4期は4月29日から寄付募集の予定であったが、4月に発生した熊本地震に伴い延期した。

寄付額については第2期19団体/18事業で6,677,780円、第3期12団体/12事業で5,018,109円であった。第4期は5団体/5事業で寄付募集中。

なお、本事業は当財団の目玉事業として定着してきており、単に寄付金を集めることにとどまらずNPOのファンドレイズを促すこと、言い換えれば兵庫において広く寄付文化を拡げることには大きな意義を有すると評価できる反面、採算的には厳しい状態が続いている。2016年春募集予定の第5期は延期しており、今後のあり方について理事会において協議中である。

### 1. 第3期、第4期の選考委員について

下記の皆さまに選考委員を委嘱した。(敬称略、○=選考委員長)

- 青木伸也 (株) 日本政策金融公庫 神戸創業支援センター所長
- 勝沼直子 (株) 神戸新聞社 論説委員
- 小嶋新 (特活) しゃらく 理事、生きがいしごとサポートセンター神戸西センター長
- 島田雄三 司法書士島田雄三事務所 所長
- 東元良宏 兵庫県企画県民部 県民生活局長
- 山添令子 生活協同組合コープこうべ 常務理事

※第3期選考員会は2015年8月28日、第4期は2016年2月5日に開催した。

### 2. 寄付募集の準備、サポートについて

共感寄付参加団体には次のようなサポートを実施した。

#### 1) 第3期について

- 2015年9月13日 第1回研修会：ファンドレイジングセミナー基礎編を実施
- 〃 10月25日 第2回研修会：伝え方セミナー、上記実践編を実施
- 2016年1月28日 情報共有会：現状の報告とこれからの取り組み
- 〃 2月25日 ラストスパートミーティング：残り期間の戦略立て

#### 2) 第4期について

- 2016年3月5日 第1回研修会：ファンドレイジングセミナー基礎編を実施
  - 〃 4月2日 第2回研修会：パンフレット読み込み会、上記実践編を実施
- この後、8月に中間報告会、9月にラストスパートミーティング予定。

### (3) Project HEAT (外国にルーツを持つ子ども支援) 事業

#### (計画)

HSBCグループからのご寄付により、外国にルーツを持ち経済的に困難な状況にある子どもたちの教育やキャリア形成を支援する。このテーマの重要性はようやく社会に理解され始めたばかりであり、本助成によりこのテーマそのものの社会的認知拡大も目指す。

当期は3年計画の1年目であり、2015年4～5月に公募・選考を実施し、5月に採択(2団体)、同月から助成をスタートさせた。事業実施期間は5月19日～2016年3月末である。

資金提供だけでなく団体の運営支援、この分野全体のネットワーク形成支援等も実施、支援の有効性をドナー及び社会に示すことで、3ヵ年以降の支援継続も目指す。(運営支援は一部、KECと協力して実施する)。

第二期は2016年1～3月頃に公募予定。

HSBCグループからの寄付金をもとに、当財団内に設置した「外国にルーツを持つ子ども支援ひょうご基金」助成プログラムは1期目を実施済みで、2期目を実施中である。

HSBCと関係が深いNPO法人NICE(日本国際ワークキャンプセンター)経由で1期目は東京、愛知、兵庫、沖縄の4地域で実施し、2期目は茨城、東京、愛知、岐阜、兵庫、沖縄の6地域に拡大した。兵庫は当財団から1期目に採択した2団体に2期目も助成を継続した。

助成先である「多文化共生センターひょうご」のキャリア教育の一環として、フィリピン出身の野球のトレーナーを目指す学生に対し、インターンシップ先(スポーツクラブ)を紹介するなどの支援を実施した。本人とインターン先の要望とが一致し、今後スポーツクラブへの採用の可能性も生まれてきている。

また新年度の9月には、寄付者に第3期の企画提案(公募案)を行う予定である。

#### (事業実施期間)

第1期 2015年5月19日～2016年3月31日

第2期 2016年1月1日～2016年12月31日

※第2期から寄付者の年度に合わせて1月～12月とした。

#### (採択団体)

助成団体	多文化共生センターひょうご(神戸市東灘区)
助成金額	第2期 70万円(第1期 80万円)
対象	中学生年齢以上
内容	キャリア設計プログラムの実施、企業等でのインターンシップの実施、事例分析と教育機関、企業等とのネットワーク構築

助成団体	こくさいひろば芦屋(芦屋市)
助成金額	第2期 60万円(第1期 30万円)
対象	小中学生
内容	教科学習支援および日本語基礎支援、日本語能力や英語検定、母語検定などの資格取得支援、高校受験や卒業後の進路に関する相談など



#### (4)「輝け加古川こども基金」事業 <新規>

##### (計画)

個人のご寄付により、加古川市内の活動を対象として、助成および支援事業を実施する。テーマは「子ども・次世代」。500万円×3カ年の予定。

加古川市在住の神川都様よりご寄付をいただき、「加古川市内の子ども・次世代関係の活動支援」をテーマに助成基金「輝け加古川こども基金」を設立した。寄付は3カ年継続する予定である。

7～9月に寄付者との相談、地域ニーズとNPOの状況のリサーチを重ね、

基本コース 上限10万円 10件程度

発展コース 上限100万円 3～4件程度 (コース総額180万円)

の2コースによる助成プログラムを設計、10月から募集を開始した。

##### 【助成対象】

子ども・次世代の健全な成長と自立に資する事業を行っている団体で

- (1) 原則として加古川市を活動の対象としている非営利団体 (法人格の有無は問わない)
- (2) 市民が主体的に設立・運営している団体

【助成期間】2016年4月1日～2017年3月31日

##### 【募集と選考の流れ】

2015年

10月8日 記者発表、募集開始

10～12月 説明会(3回)、個別相談会を加古川にて実施

12月14日 応募締切

2016年

1月19日 選考委員会

##### 【応募状況と採択団体】

基本コース 応募22団体 (応募総額2,123,081円)

採択10団体 (採択総額720,000円)

発展コース 応募12団体 (応募総額8,792,270円)

採択5団体 (採択総額1,801,320円)

(合計) 応募34団体 (応募総額10,915,351円)

採択15団体 (採択総額2,521,320円)

##### 【選考委員】

委員長 吉田実盛氏 (鶴林寺真光院住職)

委員 石堂美紀代氏 ((特活)子育てサポート☆きらりing 前理事長)

委員 柏木登起氏 ((特活)シミズシーズ代表理事)

委員 勝木洋子氏 (神戸親和女子大学教授)

委員 門野隆弘氏 ((株)神戸新聞東播支社長)

委員 桑田純一郎氏 (但陽信用金庫理事長)

##### 【協力】

特定非営利活動法人シミズシーズ

(5) 真如苑冠基金事業 新規

(計画)

宗教法人真如苑へのご提案を元に冠基金として設置、助成事業等を実施する。

事業(1)に記載のとおり、今年度中に寄付者との相談を重ねて「子どもの貧困」をテーマに助成プログラムを実施することとなり、並行してニーズのサーチや活動団体の把握を行った。

準備に時間をかけたため、実施は次年度となった。

※2016年8月募集開始、助成総額100万円で実施予定。

(6) NPOへの助成事業

(計画)

ファンドレイズをもとに助成事業を実施する。ただし、財源の集まり具合によって実施を判断する。  
(2014と同じ)

(ファンドレイジング(事業(1))により冠基金等を実現する。実現したものが例えば事業(4)や(5)となる。従って本項に記載すべき内容はない)

## (7) 他の基金等の事務局受託等

### (計画)

(公財) 神戸文化支援基金の事務局受託は昨年度をもって終了し、代わってこの4月からは住友ゴム工業株式会社のCSR基金等の業務を受託している。

### 【住友ゴム工業 CSR 基金のサポートおよびボランティア情報提供事業】

#### 1) 「住友ゴム工業 CSR 基金」サポート

本事業は、住友ゴム工業株式会社のCSR事業の一環として、マッチングギフト方式で積み立てられた基金から、環境保全、災害支援、交通安全、地域課題の解決に取り組む団体を対象に助成金を拠出するものである。助成先は、ひょうごコミュニティ財団が推薦した団体を同社内部で選考し決まる。本助成金は使途に制限がほとんどないため、団体にとっては活用しやすいと好評である。

2015年度は計7団体を推薦し、全団体が採択された(計160万円)。

#### 採択団体一覧

助成団体	助成金額	備考
(特活)まなびと(神戸市)	22万円	
(特活)ウィズアス(神戸ユニバーサルツーリズムセンター)(神戸市)	22万円	
(認定特活)女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ(神戸市)	22万円	
(認定特活)まち・コミュニケーション(神戸市)	25万円	継続
避難サポートひょうご(神戸市)	25万円	継続
うおずみん・ふるさと創生プロジェクト(明石市)	22万円	継続
明石のはらくらぶ(明石市)	22万円	継続

#### 2) ボランティア情報提供事業

住友ゴム工業株式会社はCSR活動の一環として、毎月5日・6日(ゴムの日)に、同社社員約1500名が県内NPO活動に参加できるようなボランティア活動・イベント情報(参加無料、低額のもの)を社内イントラネットで提供している。

ひょうごコミュニティ財団はこうした情報を集約し、提供する業務を受託している。情報集約には、複数のメーリングリスト等により行い、毎月2~3件ほどを取りまとめて提供した。より魅力的な情報の収集・提供と、社員参加の促進が課題である。

## (8) NPO への相談・情報提供事業

(計画)

NPOからのファンドレイズその他の相談を受ける。対象は狭義のNPOに限定しない。月2回程度で定例化。

共感寄付および個別相談を通じて、団体のファンドレイズや組織づくりに関する相談に対応した。

### ①相談事業およびセミナー

個別相談では、希望団体を対象にのべ65回の相談に応じた。

この他に、共感寄付の説明会およびファンドレイジングセミナーを計9回実施、計155名の参加があった。

### ②Webでの情報発信

ひょうごコミュニティ財団ホームページおよび共感寄付ホームページ、Facebookを通じ、定期的に団体情報の発信、ファンドレイズに関する情報発信を行った。

### 3. 組織

#### (1) 役員、評議員、顧問、専門アドバイザー等の状況

##### 【評議員】

今年度は非改選期であり、全員が継続した。

(任期：2013年6月6日～2016年度評議員会終了時)

評議員 加藤恵正	評議員 木田薫	評議員 小森星児
評議員 高土薫	評議員 竹中ナミ	評議員 中田豊一
評議員 西河紀男	評議員 早瀬昇	評議員 水野雄二
評議員 三野哲治	評議員 三井ハルコ	評議員 山本進

##### 【理事】

今年度は非改選期であり、全員が継続した。

(任期：2015年5月12日～2016年度評議員会終了時)

理事 下村俊子 (理事長)	理事 島田雄三 (副理事長)	理事 実吉威 (専務理事)
理事 川中大輔	理事 佐藤等史	理事 田中茂
理事 永田讓蔵	理事 中山光子	理事 藤井洋一
理事 室崎益輝		

##### 【監事】

今年度は非改選期であり、全員が継続した。

(任期：2013年6月6日～2016年度評議員会終了時)

監事 馬場英朗	監事 津久井進
---------	---------

##### 【顧問】

顧問 永田萌

##### 【専門アドバイザー】

阿部陽一郎	石田祐	今田忠	鵜尾雅隆
荻野俊子	行司高博	久戸瀬昭彦	久保幸一
茶野順子	長沢恵美子	畑本康介	細谷崇
松井薫	宮崎洋彰	渡辺元	

(敬称略)

## (2) 支援者の拡大

当年度末の賛助会員は以下の通りである。

年度末現在、54名／6法人。当年度中に52名／6法人の新規入会があった（下記＊印）。

### 【個人】

* 赤熊淳	* 尼川洋子	* 飯田登代子	伊藤ルミ	* 今出正俊
* 梅宮知子	* 遠藤勝裕	* 大滝精一	* 鬼本英太郎	* 柏木登起
* 加藤恵正	* 神川都	* 神田栄治	* 北詰恵一	* 木村久美子
* 行司高博	* 神野順子	* 小柳教子	* 後藤才正	* 後藤路子
* 斎藤光國	* 阪口春彦	* 佐野隆二郎	* 重田和寿	* 島田誠
実吉一夫	* 実吉威	* 直田春夫	* 田口智弘	* 蝶名林道代
* 鶴田厚子	* 東條明日香	* 徳岡八重子	* 中田智恵海	* 中山光子
* 永田譲蔵	* 苗村信行	* 西池陽一	* 秦野八重	* 林浩二
* 早瀬昇	* 久恒千里	* 久恒秀雄	* 飛田雄一	* 藤井洋一
* 藤田精二	* 藤原京子	* 三井ハルコ	* 三野哲治	* 室崎益輝
* 山内直子	* 山添令子	* 山中速人	* 和田幹司	

### 【法人】

- \* 特定非営利活動法人 北播磨市民活動支援センター
- \* 特定非営利活動法人 さわやか北摂
- \* 認定特定非営利活動法人 市民活動センター神戸
- \* 特定非営利活動法人 シミンズシーズ
- \* 社会福祉法人 たんぽぽ
- \* 特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会

(敬称略)

### (3) 会議

#### 【評議員会】

2015年9月15日 評議員会（秋毎ビル2階会議室にて）  
出席評議員 12名中11名  
審議事項 1. 2014年度決算案承認の件

#### 【理事会】

2015年8月26日 第12回理事会（秋毎ビル3階会議室にて）  
出席理事 10名中6名  
審議事項 1. 2014年度事業報告案、決算案承認の件  
2. 2015年度事業計画案、予算案修正の件  
3. 2015年度評議員会招集承認の件  
4. 「輝け加古川子ども基金」（仮称）事業計画案承認の件  
5. KECとの費用分担にかかる契約書(出向契約書)案承認の件

2015年10月22日 第13回理事会（秋毎ビル5階会議室にて）  
出席理事 10名中9名  
審議事項 1. 北関東・東北緊急募金助成先について

2016年1月7日 第14回理事会（秋毎ビル2階会議室にて）  
出席理事 10名中9名  
審議事項 1. Project HEAT（2期目）助成団体決定の件  
2. 真如苑寄付事業（冠助成）実施の件  
3. KECとの人件費按分率決定の件

2016年4月19日 第15回理事会（秋毎ビル2階会議室にて）  
出席理事 10名中7名  
審議事項 1. 「コレクティブ・インパクト・モデル事業」案承認の件  
2. 当財団の遺贈寄付取り組み方針案承認の件

2016年6月21日 第16回理事会（秋毎ビル2階会議室にて）  
出席理事 10名中7名  
審議事項 1. 2016年度事業計画案承認の件  
2. 2016年度予算案承認の件  
3. KECとの間の人件費、家賃等の按分案承認の件

#### 【タスクフォース会議】

2015年9月16日 第7回タスクフォース会議（秋毎ビル3階会議室にて）  
2015年12月3日 第8回タスクフォース会議（秋毎ビル3階会議室にて）  
2016年2月2日 第9回タスクフォース会議（秋毎ビル3階会議室にて）  
2016年6月9日 第10回タスクフォース会議（秋毎ビル3階会議室にて）

※秋毎ビル＝神戸市中央区元町通6-7-9

## 4. 決算報告

### 公益財団法人ひょうごコミュニティ財団第3期（通算第5期） （2015/7/1～2016/6/30）

- （1）正味財産増減計算書
- （2）正味財産増減計算書内訳表
- （3）貸借対照表
- （4）財産目録
- （5）財務諸表に対する注記
- （6）監査報告

（注）当財団の「期」の表示について

<2012年度>

一般第1期（法人第1期） 2013年6月6日～6月30日 <25日間>

---

<2013年度>

一般第2期（法人第2期） 2013年7月1日～2013年7月7日 <7日間>

公益第1期（法人第3期） 2013年7月8日～2014年6月30日 <358日間>

---

<2014年度>

公益第2期（法人第4期） 2014年7月1日～2015年6月30日 <365日間>

---

<2015年度>

公益第3期（法人第5期） 2015年7月1日～2016年6月30日 <365日間>

---